

(仮称) 海老名市文化交流拠点整備事業第1期基本計画 (概要版)

1 計画地区

海老名市文化会館、海老名市立中央図書館、海老名市立総合福祉会館といった公共施設が立ち並ぶエリアは、小田急線・相鉄線海老名駅とJR相模線海老名駅の駅間地区にあり、海老名駅から徒歩5分の場所に位置します。当該地区は「海老名駅駅間地区地区計画(平成21年決定・平成28年変更)」において、既存文化施設と周辺環境との調和を図りつつ、文化施設等を誘導する地区(以下「文化ゾーン」という。)と位置付けられています。



図1 海老名駅駅間地区地区計画方針附図

2 これまでの経過

(1) 基本構想の策定

市は、文化ゾーンを取り巻く状況や課題を整理し、文化発信の拠点エリアとするため、「(仮称)海老名市文化交流拠点整備に向けた調査・研究及び基本構想」(以下「基本構想」という。)を令和3年3月に策定しました。

【目標】

- 施設単体で考えるのではなく、文化ゾーン全体の価値向上を目指す
- 空間構成や動線により、新施設と既存施設を有機的に連携させる
- 来街者に多様な文化に触れる機会を創出する

【基本的な考え方】

- 既存3施設の機能を補完するとともに、一体的な活用が図れるものとする
- これまでにない新たな価値観を創造する場を設置する
- 文化ゾーンのシンボルとなるようなオープンスペースを配置

【柱となる整備方針】

- 既存ストックを有効活用した整備
- 文化芸術活動の要素として不足している「表現」や「創造」の機能を持つ新施設を整備
- 様々な活動の「交流」を生み出すとともに、新たな文化を発信していく広場を整備

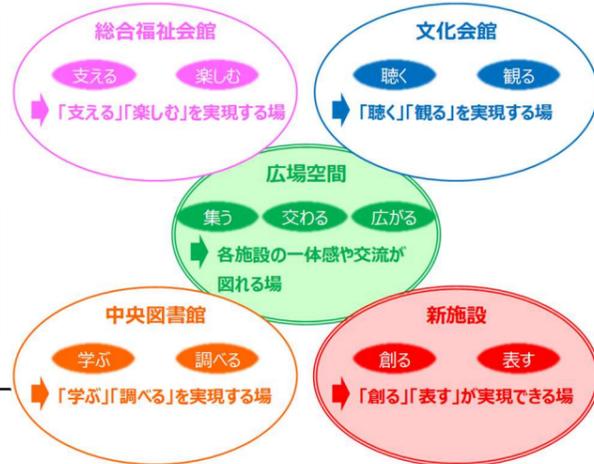


図2 文化ゾーンの構想イメージ

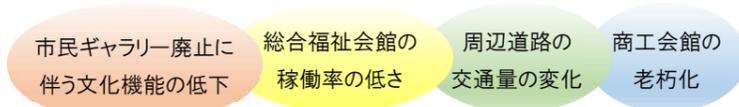
(2) 整備時期の2期化

本拠点の整備には時間的な課題があることから、整備時期を2期に分け、短期的な課題は迅速に、長期的な課題は時間をかけて解決方法を見出していきます。

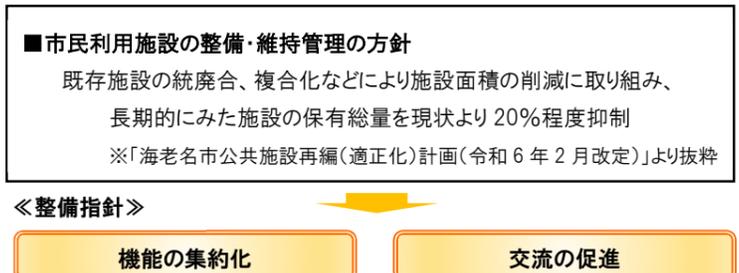
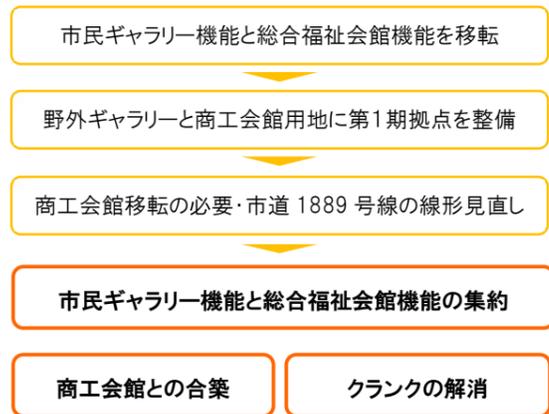
(3) 第1期整備指針の策定

市は、基本構想を具体化し、施設規模や必要諸室等の設計与件を整理する基本計画の作成に向けて、「(仮称)海老名市文化交流拠点第1期整備指針」(以下「第1期整備指針」という。)を令和6年8月に策定しました。

《課題》



《具体的な考え方》



3 計画敷地の概要

所在地	海老名市めぐみ町 483-1 ほか		
都市計画区域	市街化区域	用途地域	商業地域
建蔽率	80%	容積率	400%
防火地域	防火地域	地区計画	海老名駅駅間地区
敷地に隣接する道路		路線名	位置
		市道 1889 号線	計画敷地内クランク部
		市道 1753 号線	計画敷地南東側
		県道 40 号(横浜厚木)	計画敷地南側

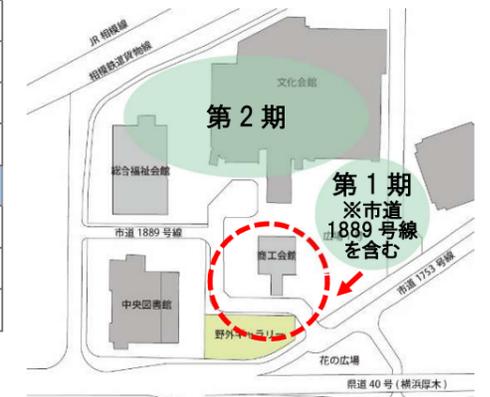


図3 計画敷地図

4 既存施設の概要・課題・対策

本計画建物に必要な諸室を導き出すため、文化ゾーン内にある既存施設の利用状況、利用団体へのアンケート調査及び指定管理者へのヒアリング結果から課題を抽出し、その対策を整理します。

(1) 機能を集約する既存施設

施設概要	課題	対策
①海老名市立総合福祉会館 (海老名市めぐみ町 6-3) 娯楽室や会議室、ボランティア団体の活動拠点から成る社会福祉活動と高齢者の健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための施設	ア 夜間稼働率の向上 イ 居室の広さや数が不満 ウ 防音機能が不十分 エ 活動物品の保管場所が不足 オ バリアフリー化 カ 多世代・多様な主体が交流できる場	ア 居室の多用途化 イ 可変性が可能な室 ウ 稼働率を考慮しつつ、居室の広さと数を検討 エ 防音機能だけでなく、防音ゾーンを設ける オ 活動物品を保管できるスペースの設置 カ バリアフリーに配慮して整備 キ 多世代・多様な主体の交流スペースの設置
②海老名市民ギャラリー (海老名市中央 2-9-50) 2つの展示室から成る市民の芸術、文化向上のための施設	ア 稼働率の向上 イ 多種多様な作品を展示できる展示室 ウ 多様な規模の展示が可能な展示室 エ 展示室の天井の高さや展示パネル、照明や音響設備の適正な仕様 オ 搬出入経路の整備 カ 展示室毎に控室を配置	ア 多種多様な作品を展示又は公開できる空間及び設備環境を整備 イ 展示に限らず、多用途利用が可能な室 ウ 室形状や展示空間を変更できる仕様 エ 展示室に隣接した搬出入経路の整備 オ 展示室毎に控室を配置
③野外ギャラリー (海老名市めぐみ町 483-1、484-1) 屋外の展示スペース	利活用の増加	気軽に立ち寄り、鑑賞できる空間の整備
④海老名市商工会館 (海老名市めぐみ町 6-2) 商工会議所法に基づく市内唯一の経済団体である海老名商工会議所の活動拠点施設	商工会館の老朽化	野外ギャラリー敷地への移転建築を要望

(2) その他の既存施設

①海老名市文化会館 (海老名市めぐみ町 6-1) ア 音出し可能な居室の稼働率は99%以上 イ 講演や学習に利用できる居室の稼働率は90%超	ア 防音機能を備えた居室を設置 イ 講演や学習に利用できる居室を設置
②海老名市立中央図書館 (海老名市めぐみ町 7-1) 1階の座席、2階の閲覧席、3階の学習席が常に混雑	学習席等を補うスペースを設置

(仮称) 海老名市文化交流拠点整備事業第1期基本計画 (概要版)

5 施設コンセプト

基本構想及び第1期整備指針を踏まえつつ、既存施設の課題と対策から、施設コンセプトを『Stage Gardens—多様な「場」が集うまちの「広場」—』とします。

「Stage」とは、機能が集約される既存施設において培われてきた文化を発信する場を意味します。さまざまな文化が集まり、多様な情報に触れることで新たな発見や気づきが得られます。それらが融合することにより、これまでにない新しい価値観を創造することを目指します。

Stage Gardens — 多様な「場」が集うまちの「広場」 —

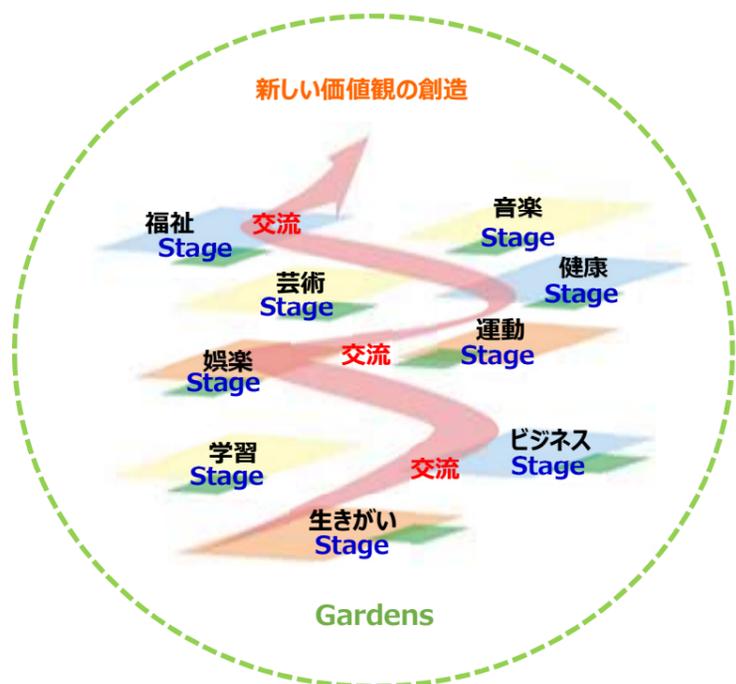


図4 施設コンセプトの概念図

(1) 多様な場 (Stage) の集合体

多様な場(Stage)を集めてひとつの広場(Gardens)を創り上げます。本計画建物では散りばめられた場(Stage)で個人や団体が各々の場(Stage)を作り、偶発的な出会いや景観を創り出します。

(2) 時間帯によって主役が変わる

「場(Stage)」では、昨日は会議が開かれ、今日は音楽の練習、明日は発表会があり、講演会の準備が進められるなど、さまざまな活動が行われています。また、朝は高齢者が集い、昼は親子の笑顔があふれ、日が傾くと学生が立ち寄り、夜は仕事帰りの社会人が集まるなど、「場(Stage)」の景色は日によって、時間帯によって変わります。

6 各階構成・参考イメージ図

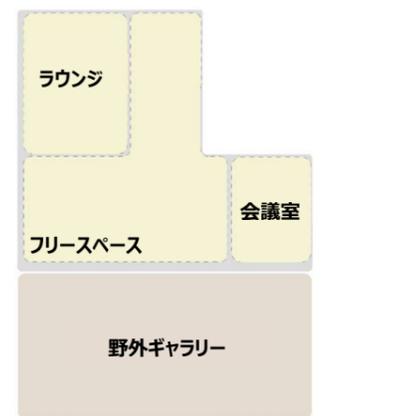
1階 出会うフロア

多様な人や活動が出会い、交流へと繋がるフロアです。作品を発表できる市民ギャラリー、趣味や娯楽の活動等に利用できる娯楽室、気軽に立ち寄れるフリースペースを配置します。



2階 くつろぎのフロア

くつろぎながら交流を深めるフロアです。気軽に立ち寄り、自然の光や風を感じながら作品を鑑賞できる野外ギャラリー、壁のない開放的な空間で学習や仕事ができるラウンジを配置します。



3階 集いと活動のフロア

仲間が集って活動をするフロアです。活動の場となる会議室やレクリエーション室を配置します。



7 概算建築事業費・事業スケジュール

(1) 建築概要 (建築事業費試算条件)

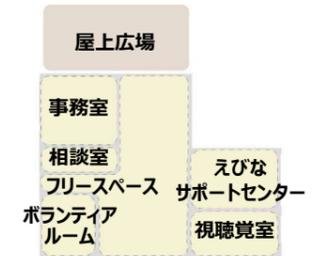
敷地面積	約 2,000 m ²	構造	鉄筋コンクリート造
延床面積	約 4,400 m ²	階数	地上 7 階

(2) 概算建築事業費

約 56 億円(税込)
※設計を含みます。
※現時点の概算であり、労務単価や物価、経済状況、その他の事情等により増減する可能性があります

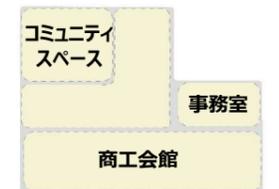
4階 支え合いのフロア

福祉活動を行う人々が集まり、活動をするフロアです。福祉活動の拠点となる場を配置します。



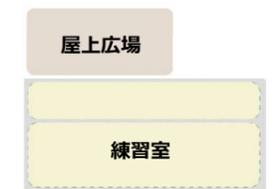
5階 共創のフロア

異なる目的をもった人々がつながり、共に仕事や学習をすることにより、新しいモノ・コトを創造するフロアです。コミュニティスペースと商工会館を配置します。



6階 創作のフロア

音楽やダンス、演劇等の創作活動をするフロアです。防音機能を備えた練習室を配置します。

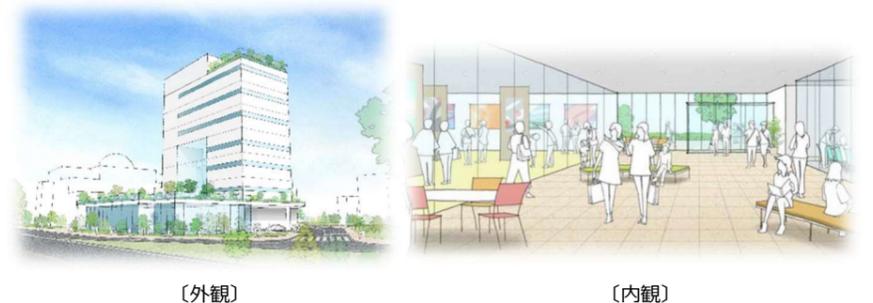


7階 表現のフロア

多様な活動を表現するフロアです。多用途に使える多目的室を配置します。



参考イメージ図



(3) 事業スケジュール

※予定であり、変更の可能性があります。

	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度
現商工会館	解体				
市道 1889 号線	道路設計	改良工事			
本計画建物	建築設計		建築工事		供用開始